



社訓\*誠実 ～ 社長室だより ～ 2018年5月末号



正月から騒いでいた誕生日月に生まれて初めて母と二人で1泊旅行(と言う程でもないが)に行った。本当は父と3人で父が年明けからお参りに行きたいと懇願してきた成田山新勝寺参りである。既に杖を付かないと歩くのがしんどくなっていた父なので日帰りが出来る距離だが、お寺の真正面の温泉宿を予約した。しかし日程目前で父が夜中に緊急入院してしまったので「回復祈願」を兼ねて土曜日午前中に父の見舞いに行ってから母と成田に向かう。「あら～随分遠いのね～」と母。高速で1時間で着くのに。普段は杖無しでも歩けるのだが、玉砂道や階段はきついだろうし、時間がかかるから車いすを借りて移動した。車イスと高齢者の利点は大きい！駐車場も無料で入り込み、通路も開けてくれるし、セレモニーも見やすい場所をゲット出来る。何故この時期にお参りしようと思ったかと言えば、今年は開基1080年祭、10年に一度の大開帳の年であり、新しい仏殿も2つお披露目される特別参詣期間中。様々な記念行事も行われ、この日もたくさんの参拝客が全国各地から団体に押し寄せていた。護摩の申込書で「いくらの護摩にしようか？願い事は何でも応用が利く心願成就がいいか？」と聞くと「病気が早く治る様にだから身体健康修行よ！」と母。「そう～？家にお祭りしているのは大きな札だから3万円かな～」と言うと「何いってんの！小さくても大きくてもご利益が変わる訳じゃないんだから、安くてもいいのよ、3千円で！もったいないじゃない！」とも。いやいや住職が祈祷している時の火にあぶる時間がちがうよ、その他大勢と一緒に一振りでは心もとないし、、、家の大きな神棚に小さなお札では家族の想いが小さいと思われても、、、とも思うのだが、さりとて母の言う事も一利有る。で中をとって1万円の祈祷料を支払った。本堂前には大きな「大塔婆御手綱加持」が聳え立ち、長蛇の列が。塔には本堂の御不動様の御手から5色の綱が渡され、その綱が塔から下がり、私たちが握る事が出来る。つまり御不動様の御手を握り締め、御不動様をより近くに感じてお願い事をする事が出来ると言う造りになっているのだ。お参りしない訳にはいかない。力強く握りしめ先ず「私に二つの会社が企業として存続し続けられるように運とチャンス。それを呼び寄せて下さる方々を。それを見抜き、決断できる判断力を下さい。どうか今日も無事に過ごせますように、家族が息災でいられますように」と祈る(打ち明けると叶わないんだっけ？！)いつも神に手を合わせる事は同じ事を祈っている。夜は母と二人で温泉に入り、丸く曲がった背中を流し、向き合って精進料理+名物のウナギを芳張った。「宿代いくら？高いの？」ペットボトルのお茶を出すと「もったいないから飲めない」と。でも寺では「おみくじ引きたい！」「あんたも引きなさいよ」とも言う。母が引いたおみくじは「吉=願い事はゆっくりだが叶う」と出た。私は吉以上が出る気がしないし「大凶」が出るのが怖くて引けないのだ(何と小心)母の引いたおみくじを

願いがかなうように硬く結び全ての神殿を車いすを押しながら「車イス通り～ます」と駆け巡った。10年後の「大開帳」に父も一緒に参拝できるのか。近頃疑問に感じる事が現実味を帯びて来ている。頻繁に「ありがとう」「すいません」と口に出すようになった父は、それでも会社に行きたがり、自分の思い入れが強い業界の総会に出席を希望している。戦争を括りぬけ、一時代を築き上げた創業者は強い精神力と有る共通点を感じる。先日イトーヨーカドー伊藤雅俊元社長が若い人たちに是非伝えたい事として今年3月出版された「遺す言葉」と言う本を開いた。そこには父も、そして私も共感している言葉が溢れていた。私は冒頭の下記序文から釘づけとなってしまった。

「おごれる者は久しからず」＝「平家物語」が説く「盛者必衰の理」は、人間は自分一人で生きているのではなく、過去、現在、未来はつながっているという人の世の摂理を忘れた人間の弱さ、心のすきまに滅亡の種がやどむと言う教えです。今がすべてではない、こうなるには歴史があった、という経験が有るのと無いのとでは大きな違いです。当たり前と思うかもしれませんが、当たり前の事を当たり前にする事が一番難しいのです。人より長く生きた人間だからこそわかることがあります。それは難しい事ではなく人の世で一番大切なことは何かと言う平凡な、しかし、一番大切な事からです。大切なのは「謙虚さ」であり、「誠実さ」であり、「真摯である」ことです。

序章でこの書に魅せられページを進めると、こんな1節も

「初心忘るべからず」という言葉があります。慣れから生まれる気の緩みや、謙虚さを失って傲慢になることをいさめる言葉です。これを商売に当てはめると、「初心」は「創業の心」と読み替える事ができると思います。「創業」は業を創ると言う事ですから、無から有を生み出す。文字通りゼロからの出発です。有るのは、お客様に誠心誠意を尽くそう、取引先に決してご迷惑をかけまい、という真摯なきもちだけです。その創業の心を忘れずに、真面目に努力を積み重ねことで、何物にも替え難い信用が生まれ、どうにか食べていけるのです。

と上記のように記載されています。創業の心＝社訓 我社の社訓は上記に解説された通り誠心誠意の「誠意」（まごころを込めて自分が出来る限りの事を行う）です。還暦を迎え干支を一巡して生まれかわり再出発の今期に成田山新勝寺に向き、お不動様に触れ、母娘二人だけの旅を味わい、偉大なる商いの大先輩の「遺す言葉」に己の想いに背中を押された誕生月を過ごした事を嬉しく思います。この時間が持てたのはこの時間に皆さんが事故無く業務を遂行して下さっているからと本当に感謝しています。「ありがとうございます。」これからも一緒に誠心誠意頑張りましょうね！！と今月は誕生月ですから増刷バージョンしちゃいました。最後まで読んでくれた方には追加でもう一言 「感謝！」